



新青森駅開業11周年 記念イベント盛況

コロナ禍でもおもてなし活動充実

東北新幹線・新青森駅は2021年12月4日、開業から11周年を迎えました。2010年12月の開業時に比べると、総合病院やビジネスホテル、レストランを備えた結婚式場などが駅前に立地し、景観が整ってきました。コロナ禍の中、青森県立青森西高校「青西おもてなし隊」や新青森駅スタッフによる、おもてなし活動も年を追うごとに充実しています。2031年春の北海道新幹線・札幌延伸に向けて、道南との連携に期待が掛かります。



新青森駅では12月4日、11周年記念を兼ねた「冬

る舞われました。

のおもてなしイベント」が開催されました。工藤富士雄駅長はいさつで、開業3カ月後に襲った東日本大震災、コロナ禍の中で迎えた開業10周年などの歩みを振り返りました＝写真左。続いて、青森認定こども園「あおいもり園」の園児らがクリスマスツリーに点灯し、新青森駅の社員らが2,000個のキャップを集めて作ったエコキャップアートが披露されました。

その後、「あおいもり園」の園児やゴスペルチーム「ARISE」などの歌、バイオリンリスト・白鳥俊治さんの演奏が聴衆をわかせ、駅利用者には記念のリンゴが振

12月中旬には、受験生を応援するメッセージを記したポスターの掲示が始まり、「志操堅固」、「一念通天」



といった、駅員の皆さんが大切にしている言葉で、受験生にエールを送っています。ポスターの掲示は1月未まで行われています＝写真右下。



青森大学生ら4者、「ガニ線カード」制作・配布

奥津軽いまべつ駅で記念トーク

青森大学の学生とJR東日本盛岡支社、外ヶ浜町、今別町が協力して2021年12月、JR津軽線や沿線のPRと交流促進を図ろうと「津軽線（ガニ線）カード2021」を制作しました。12月11日にはJR青森駅で配布開始イベント、17日には記念のオンライン・イベント「ガニ線トーク2021」が開かれました。

★JR盛岡、外ヶ浜、今別と連携

津軽線は青森駅と三厩駅（外ヶ浜町）を結び、「ガニ線」の愛称で親しまれています。ガニ線カードは、青森県が作成した「漁師カード」にヒントを得て2020年、青森大学生が考案しました。第1弾が2021年3月に完成、配布され、1週間ほどでなる好評ぶりでした。

第2弾は、津軽線のうち青森－蟹田間の開業70周年記念も兼ねて企画され、沿線の今別小学校（今別町）、蟹田中学校（外ヶ浜町）、外ヶ浜町の時苗志野さん、今



別町の依田啓夢さん、JR東日本の藤井春妃さんと松尾優樹さん、奥津軽いまべつ駅、制作に当たった青森大学生の8組を取り上げました。

配布開始イベント＝写真上＝には、青森県の津軽海峡交流圏シンボル・キャラクター「マギユロウ」も駆けつけ、記念撮影する人たちの姿も。カードは青森駅、奥津軽いまべつ駅で12月26日まで配布されました。

★地域で活動する人の後押しを

「ガニ線トーク」は奥津軽いまべつ駅を配信場所として開かれました。デザインを中心となったJR青森駅の佐藤慎助役、外ヶ浜町の取材をサポートした役場職員の青松啓隆さん、今別町の取材をサポートした役場職員の前田秀和さん、青森大学社会学部3年の相坂匠飛



ガニ線カード2021
ろお〜！ガニ線おもべつなるぞ〜！

青森大学生等「ガニ線カード」第2弾 無料配布！
【配布期間】
12月11日（土）9：40～12月26日（日）
※カードは無料のポスター配布となります。

【配布場所】
青森駅改札外エスカレーター
JR北海道津軽線いまべつ駅 ミニバスの窓口付近
※1名1枚ずつ配布となります。
※数量はなくなり次第終了となります。

協賛企業 青森大学

「ガニ線カード」は、ガニ線沿線の魅力を伝えるためのカードです。第2弾は、青森県内の各駅で配布されます。

「ガニ線カード」は、ガニ線沿線の魅力を伝えるためのカードです。第2弾は、青森県内の各駅で配布されます。

さんが出演し、榎引素夫・社会学部教授が司会を務めました＝写真左（田村昌弘氏提供）。JR東日本盛岡支社の井上宏和企画部長が「津軽地域を盛り上げ、活性化のためにご協力を」とビデオ・メッセージを寄せました。

佐藤さんはカードについて「海の深い層や浅い層の重なりを象徴したデザインにした」と明かしました。青松さんは子ども同士で津軽線に乗って出かけ、夕焼けの中をやはり津軽線で帰ってきた思い出を披露。成田さんは「取材に同行して、ふだん、なかなか聞けない住民の方の声を聞くことができた」と振り返りました。相坂さんは、「過疎化と高齢化が進んでいるが、どうにかしたいと考える人々にたくさん出会えた。地域で活動する人々たちを後押しできる活動が続けていきたい」と抱負を述べました。

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく②9

飯山に学んだ「イエスの発想」と連携の力

青森大学と青森西高校の高大連携事業の一環として11月22日、「おもてなしフォーラム」が開かれました。一般社団法人・信州いいやま観光局の大西宏志さんの講演「雪国の新幹線駅のおもてなし」を聴講した、生徒たちの感想をご紹介します。

◇ ◇ ◇
【高橋瞳月さん（2年）】

（北陸新幹線）飯山駅の観光案内所には、たくさんの方の工夫がありました。観光客以外に、地元の人も使用できるとような勉強スペースを設けることにより、地元の

人と観光の人が自然に交流できるようになっていて、考えられていると思いました。

【伊藤榛那さん（2年）】

“「イエス」の発想でのサービス提供”という言葉が心に残りました。「わからない」「できない」で終わるのではなく、スタッフ自ら調べて対応する努力がすごい。

【大中悠菜さん（2年）】

地域全体のおもてなしの心の強さが、この観光所や地域をさらに盛り上げているのだとわかりました。地域を「愛する心」がとても大切なのだと思えることがで



きました。

【八木橋翼さん（1年）】

飯山駅は、周りの9市町村と連携して、情報発信・収集をしたり、共有したりすることで、広く地域の魅力を発信していることがわかりました。案内所の対応には驚き、「おもてなし」の大切さを改めて知りました。

青森県立美術館

をテーマにした映像作品が目を引きまします。

八戸市を拠点に活動した豊島重之は、2002年の舞台作品「直下型演劇」の映像と舞台装置＝写真③



＝が、コロナ禍の時代に通じる不安や息苦しさ、今なお新たな衝撃を誘います。

沖縄県出身の山城知佳子は、少年時代にサイパンで戦禍に遭った男性の回想の言葉に自身の映像を重ねた作品《あなたの声は私の喉を通った》＝写真④＝などが展示されています。
チケットは一般1,500円、高校生・大学生1,000円、中学生以下は無料です。

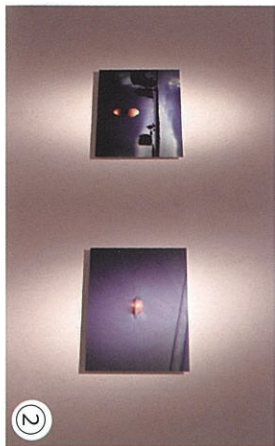
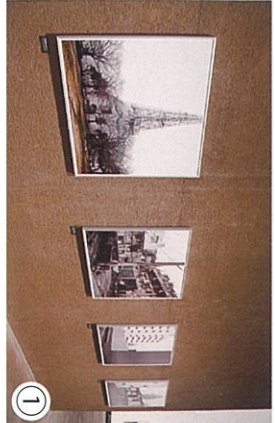


震災10周年「あかし展」

「取りこぼされてきたもの」に焦点

青森県立美術館で、企画展「東日本大震災10周年あかしtestaments」が、2022年1月23日まで開かれています。北島敬三、コ・スノウ、豊島重之、山城知佳子という4人のアーティストが追いかけてきた「時代に取りこぼされてきたもの」や、ネガティブな出来事に向き合う営みに焦点を当てています。

日本を代表する写真家の1人である北島敬三は、震



災の傷跡の様子と、日本各地のうち捨てられたような風景を並べた写真シリーズ「UNTITLED RECORDS」＝写真①＝に加えて、定点観測的な肖像写真のシリーズ「PORTRAITS」が出品されています。

韓国・済州島出身のコ・スノウは、静かな折りと一筋の光明を感じさせる連作「石の蠟燭」シリーズ＝写真②＝、第二次大戦後に起きた「済州島四・三事件」

三内丸山遺跡

企画展「縄文人と数」1月22日スタート

国特別史跡・三内丸山遺跡で1月22日（土）から4月3日（日）まで、企画展「縄文人と数」が開かれます。遺跡の出土品を通して、当時の人々が、数をどう考え、利用していたかに迫ります。

三内丸山遺跡からは、大人の腰ぐらいの高さがある巨大な円筒土器から、ままごとセットのようなミニチュア土器まで、さまざまなサイズの土器が出土しています。また、遺跡の最盛期に作られた円筒土器は、縁の部分に4つの突起があるのに対し、その後に作られた大木系土器は、突起が3つです。

今回の企画展は、これらの特徴や変化の背景に潜む、

縄文人の精神性を探ります。
展示は、出土品からどんな数か読み取れるかを考える「数えてみよう」、土器にどれぐらいものが入るかを扱う「容量」、土器にみられる突起の数の謎を解く「分ける」、そして掘立柱建物のサイズをさまざまな角度から調べてみる「測る」の4部構成です。
これまで気付かなかった、出土品や遺構の意外な横顔が見えてきそうです。
観覧料は一般410円、高校生・大学生は200円、中学生以下は無料です。「縄文人と数」展は、遺跡を含む常設展観覧料金で見学できます。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaryama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。
観覧料 一般510円（410円）／高校・大学生300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）

※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <http://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約10分・300円、タクシー（南口）約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント



＜ネット情報＞

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森西高校ホームページ（<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>）に掲載しています。いずれも、右側にのQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

縄文と芸術 FB ページ Instagram ページ

